

小 浜 島 の 結 願 祭

波照間 永 吉

1. 結願祭の位置と組織

結願祭は、八重山では一般にキチィガン、キチゴンなどと称され、一年の願の成就を神に感謝し、この一年にかけられた緒願を解くための祭祀である。と同時に、来る新しい年の豊饒を祈願する祭りとしての性格も付与されているように受け止められる。

小浜島の結願祭は、フファバーニンガイ（草葉願い）、プーニンガイ（穂願い）、ウーニンガイ（大願い）、ハチィニンガイ（初願い）、タニトウリィ（種取り）等とともにユーニンガイ（世願い＝豊饒祈願）とも称され、島の年中行事の中でもポーリィ（豊年祭）と並ぶ大きな祭りである。小浜島では現在、シチィ（節祭）と結願祭を一つの祭りとして執り行っているが、これがいつごろからのものであるかは不明だという（大嵩秀雄氏談）。節祭を吸収している故か、小浜島の結願祭は旧暦八・九月のツチノエキの日に行われている。

小浜島は北部落と南部落の二つの集落で構成され、人類学のいう双分制のみられる社会である。そのため、結願祭の諸々の事柄は北部落と南部落においてそれぞれ全く同様に展開されることを原則としている。例えば、結願祭に来临します神は北部落ではメーラク（弥勒）で、南部落ではフクルクジュ（福祿寿）である。またショウニチィの芸能を準備するキョングンヤー（狂言屋）、ブンドウリィヤー（踊り屋）は北・南両方にあるといった具合である。この双分的なあり方を小浜島の結願祭の一つの特徴と見ていいだろう。

さて、結願祭を執り行う為の組織として、スータイ（総代。部落会長。公民館副館長を勤める）、ナカス（男女各6人程度。30才前後～55才迄－北部落の例）、キョングニンズ（狂言人数）、ブンドウリィニンズ（踊り人数）があるが、なかでもナカスはスータイの命令に従い、会計や人事を始め、結願祭の諸事を管掌する重要な役である。ナカハタラギ（中働き）とも称されるように、結願祭の成否はナカスにかかっていると言われるほどである。現在は数名で、

1992年北部落では島在住者3人、石垣島在住者2人という構成であった。ナカスは年令により、シンジャナカス（兄ナカス）とウトゥドゥナカス（弟ナカス）に分かれている。前者は指示者的役割を担い、後者は部落各戸との連絡などに立ち働く。これは女性のナカスも同じである。

キョングニンズ、ブンドゥリィニズの統率はそれぞれの師匠がとる。この師匠は小浜島の芸能をしっかりと継承したと認定された人物で、2人ずつ任命される。この師匠の下に、ブンドゥリィニズ、キョングニンズが割り振られ、結願祭の芸能を演じるのである。その師匠は先に決まっておき、キョングニンズ、ブンドゥリィニズは前年のトゥンドゥミの日に決めておく。

キョングニンズ、ブンドゥリィニズが結願祭に備えて稽古したり、集会をもったりするための家をキョングンヤー、ブンドゥリィヤーという。両方ともに民家を借り受けるのであるが、空いている家や、家族の少ない家などを借りる。また、新築したばかりの家がカルイ（嘉例）をつけるということで申し出ることもある。キョングンヤー、ブンドゥリィヤーでの稽古は結願祭の一週間前から行われるという。

音曲を担当するディー（地方）も北・南数人ずついる。ディーニズ（地人数）と称され、年令による退役はない。後輩が育ったところで自然と退く。

このほか、北にはミルクヤー（弥勒屋）、南にはフクルクジュヤー（福祿寿屋）がある。それからカータ、ティダクシィ、ナカヤマ、サクイ、カフニの各ワン（御嶽）にはチーカー（司）、バチィ（脇司）、チンチビ（手摩り部。男性神役）、ヤマニンジュ（山人数。祭祀集団）がいて、ワンにおけるユニンガイを執り行う。また、公民館の館長ら役員も重要な地位を占めている。

2. 結願祭の儀礼過程

小浜島の結願祭は、シィクミ（仕込み）、ショウニチィ（正日）、トゥンドゥミ（止め）、タマスコーサミ（語義未詳）の四つの部分に分かれるが、ショウニチィの日撰りがツチノエキの日に当たり、シィクミはその前日、トゥンドゥミは翌日、タマスコーサミは翌々日となっている。従って、祭りの期間は4日間となる。以下、筆者が調査した1989・1990・1992年の結願祭の祭儀の

概略を記述することとする。シィクミの日の記述は1990年と1992年、ショ－ニチィ、トゥンドゥミ、タマスコーサミの記述は1990年の調査によるものである。

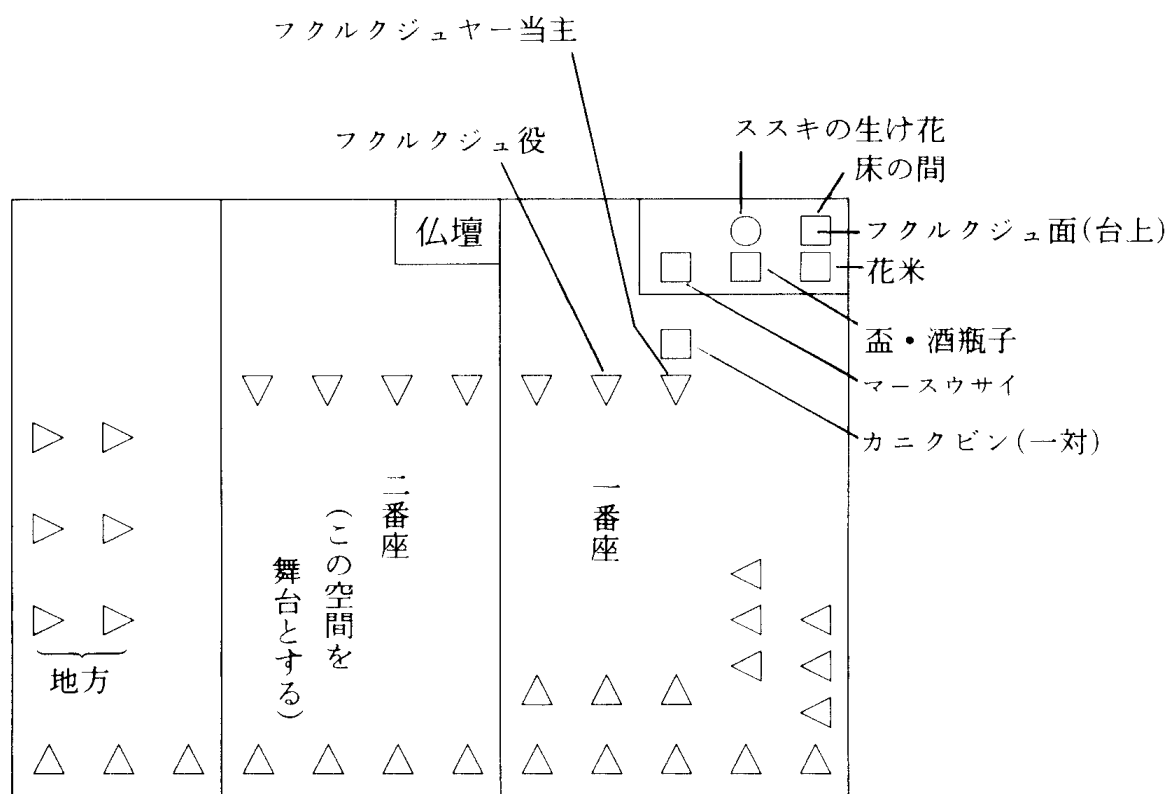
(1) シィクミ

シィクミの日は、午前5時頃から行われるクパン（神餞）の準備から始まる。クパンは北・南両部落の会長宅で作られる。結願祭のクパンはポールのそれと並んでウシクパン（牛肉製の神餞）である。クパンはポーリィの時の物と同じで、水炊きの牛肉を長さ約10センチ、幅3～4センチ程の短冊型に切り、中心に据えた豆腐の周囲にぐるりと立て巡らしたもので、直径が14～5センチの円柱状のものである。その上部と下部は稲藁で結わえてあるが、稲藁の数は上の方は5本、下の方は4本と決まっている。その稲藁の結んだ端を長く取って、真っ直ぐに立たせる。

午後3時過ぎにはシィクミへの参加を促す触れのドラが打ち鳴らされ、4時頃にはシィクミの儀礼が始まる。

〈午後3時45分頃〉南部落では、儀礼はまずフクルクジュヤーの当主がフクルクジュの神前に線香をたき、一同で合掌・祈願して始まる（北部落でも同様にメーラクを祀ったミルクヤーで祭儀が執行される。本稿では南部落のシィクミの模様について記述する）。フクルクジュの面（神そのものとして崇敬の念をもって丁重に遇する）は床の間に飾られ、フクルクジュの衣装や杖、旗といったフクルクジュの芸能に用いられる諸道具も部屋に取り出されている。部落の長老・ヤマニンジュ有志は、互いに、今年の豊饒を感謝し、来年が良い年となるように、という意の挨拶を交わし、着座する。フクルクジュを祀った床の間に飾られた神酒と小皿に盛られたマースウサイ（真塩御菜。縁起物の塩）をフクルクジュヤーの当主（因みにフクルクジュヤーの役は2年、ミルクヤーは4年と決まっている）が頂き、次いで昨年フクルクジュ役を勤めた人が、そしてその次に今年のフクルクジュ役の人がいただく。（フクルクジュを祀るフクルクジュヤーの役を仰せつかっている人とフクルクジュを演じる人とは別人である。いずれも村人にとって大変に名誉なこととされ、結願祭の芸能にフクルクジュ役を仰せつかると、一族あげてその役が恙なくおえられるよう身を入

れるという。フクルクジュに従うカムロ以下の役者も子や孫など一族に割り振られるという。フクルクジュ、メーラク役を演ずる人をカフーナピトゥ＝果報な人と称する)。その後、神酒とマースウサイは一座の人々に下される。一段落した後、ナカスが「今年の結願祭で豊年を祝い、来る年の豊饒を祈って下さい」という趣旨の挨拶を行い、歓談となる。(図1 参照)



〈図1〉 フクルクジュヤー図

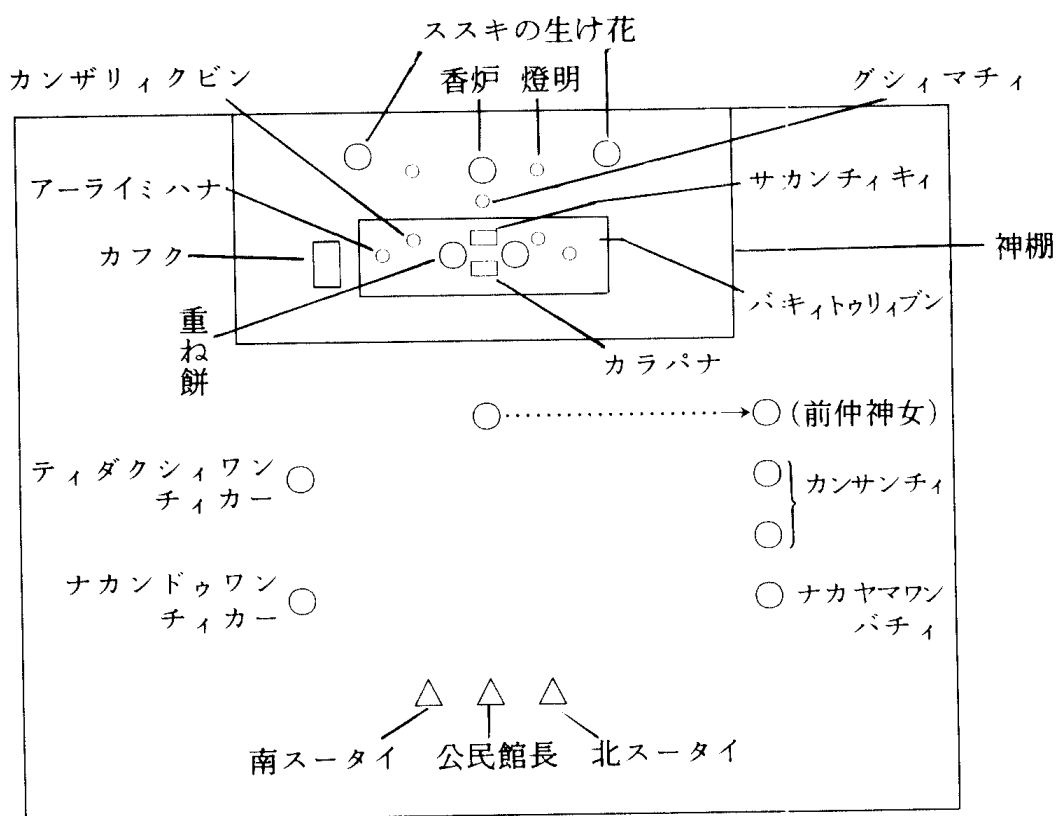
〈午後4時05分頃〉フクルクジュヤー当主が、フクルクジュの神前に線香を上げ、次いで仏壇（当家の先祖を祀ってある）にも線香を上げる。フクルクジュ役の男性がフクルクジュの衣装を着け（素面で）、フクルクジュの神前、当家仏壇の順に拝礼し、その後一座の人々に向き直って一礼した後、フクルクジュの入来を演じ、以下、フクルクジュに従う諸人の舞踊が一座の人々に披露される。この時演じられたのは、赤馬節、夜雨節、稲摺り節、日出度節、カタミ節、前の浜、ソマブシャーで、小浜節でフクルクジュは退場する。これで座敷での芸能のシクミは終わる。

〈午後5時頃〉次いで、翌日朝のカフニワンでのザーマーリィ（座廻り。披

露目の行進)に備え、庭で練習が行われる。これでフクルクジュヤーでのシィクミは終了となる。午後6時頃にはボーシィクミ(棒術の仕込み)、午後8時頃からキョングインその他恒例の出しもののシィクミが行われることが告げられ、解散となる。(北部落も同じ)。(以上は1990年調査の記録による)。

(2) カフニワンでのユングムリィ

各ワンのチィカーはこの日の夕刻よりユングムリィ(夜籠もり)の祭儀を行う。ユングムリィはカフニワンで行われる。カフニワンにカフニ、ティダクシィ、カータ、ナカヤマ、サクイ、ナカンドゥの各ワンのチィカー、パチィが一夜籠もる祭儀である。(図2参照)



〈図2〉カフニワン拝屋内図

〈午後8時20分頃〉カフニワンの拝屋(八重山では一般にオンヤーと称している)にクンヂィー(伝統的な礼服)を着けた公民館長、北・南の部落長が到着。神前に一礼して着座する。

神棚にはススキの葉の生け花が飾られ、香炉の前には種々のコームチィ(供

物)を載せた、大型の長方形の盆・バキィトゥリィブunが据えられている。バキィトゥリィブunに乗っているコームチィは、直径20センチ程で厚さ1センチ位の偏平な形の餅を2枚重ねた皿、花米(カラパナ、アーライパナー対の2種)、カンザリィクピン一対、サカンチィキィなどである。

カフニワンの神役の補助役が神棚にローソクを灯す。一座の神女たちは神衣装(チィカーはシルチョウ、バチィやカンサンチィはタナシィ)を着ける。しばらくあって、カフニワンの神役(チィカーは石垣におり、今年=1992年の結願祭はバチィの前仲ハルさんが司祭となっている)がカフク(線香や神前に捧げる花米を入れる直方体の蓋付きの箱)から線香を取り出し、神棚中央の香炉にとぼす。線香は4組捧げられる。前仲神女は神棚前中央に着座して拝礼する。他の神女も合掌して祈願を捧げる。拝礼が終わり、前仲神女は立ち上がり、神棚に飾ってあるカラパナ(花米。洗ってないそのままのものをいう。洗った花米をアーライパナという)の箱をとって、両手で軽く押しいただいて下ろし、それから3回、右手でつまみ取り軽くいただきもとにかえす拝礼を行う。次いで、着座して自分のカフクのカラパナでも同じ拝礼の所作を行う。再び立ち上がり、神棚のサカンチィキィ(盃)をサカンチィキィヌダイ(盃の台)とともに軽く押しいただき、マチィングシィを入れたグシィマチィ(大型のガラス製のコップである)にあけ、次いでコームチィのカンザリィクピン(飾り小瓶。錫で出来ていることからカニクピンともいう)の右の方から酒を注いで押しいただいてグシィマチィへあけ、次に左のカンザリィクピンからも酒を注いで同様にする。そして神前に着座して、一座の人々に拝礼を促す。チィカーらはパイと呼ばれる、手指を開いて合掌した手の小指をトントントンと床に軽く打ちつける所作の拝礼を行う。また公民館長や北・南両部落長もパイを行う。男性のパイは、神棚に向かって正座して合掌・一礼した後、立ち上がり、そして合掌してもとの正座になお、また立ち上がって合掌する所作を都合4回繰り返すものである。このパイをユーパイ(四拝)と称する。

このパイの後、前仲神女は再び自分のカフクを取り上げ、軽く押しいただく。そして神棚のバキィトゥリィブunに飾られたアーライパナ(湯飲み茶碗に洗った米を入れ、茶碗のふちにサカキの葉を5枚立ててある)を2つともに取り、軽くいただいてティダクシィワンのチィカーへ渡す。ティダクシィワンの

チィカーはアーライパナを両手で受け取り、神前に向かい押しいただいて、傍に座っている神女に渡す。次いで、前仲神女は自分のカフクも軽くいただいてティダクシィワンのチィカーへ渡す。ティダクシィワンのチィカーは先と同様にして次の神女へ渡す。アーライパナと前仲神女のカフクはこうして一座の神女らへ次々に渡され、一巡した後、神前の座敷中央に置かれる。

次に、前仲神女は立ち上がって神棚の香炉の前に供えられているグシィマチィに、マチィングシィを入れる。これは先にやったのと同じ作法で、まずサカンチィキィに入っているのをグシィマチィにあけ、次いで右のカンザリィクピンの酒を注いでグシィマチィにあけ、最後に左のカンザリィクピンの酒を注いでグシィマチィにあける。そしてグシィマチィを下げ、軽くいただいた後、口をつけずティダクシィワンのチィカーへ渡される。ティダクシィワンのチィカーも同様に神酒をいただいた後隣の神女へ渡す。この神酒は反時計廻りに、神女のみでなく、着座している村役の男衆にも廻るが、誰も口をつけない。

神酒が一巡すると、北・南部落の長が前仲神女に対して、豊年をもたらしてくれたことに対して感謝し、来る年もまた豊饒であるように、とのお願いの言葉を述べる。

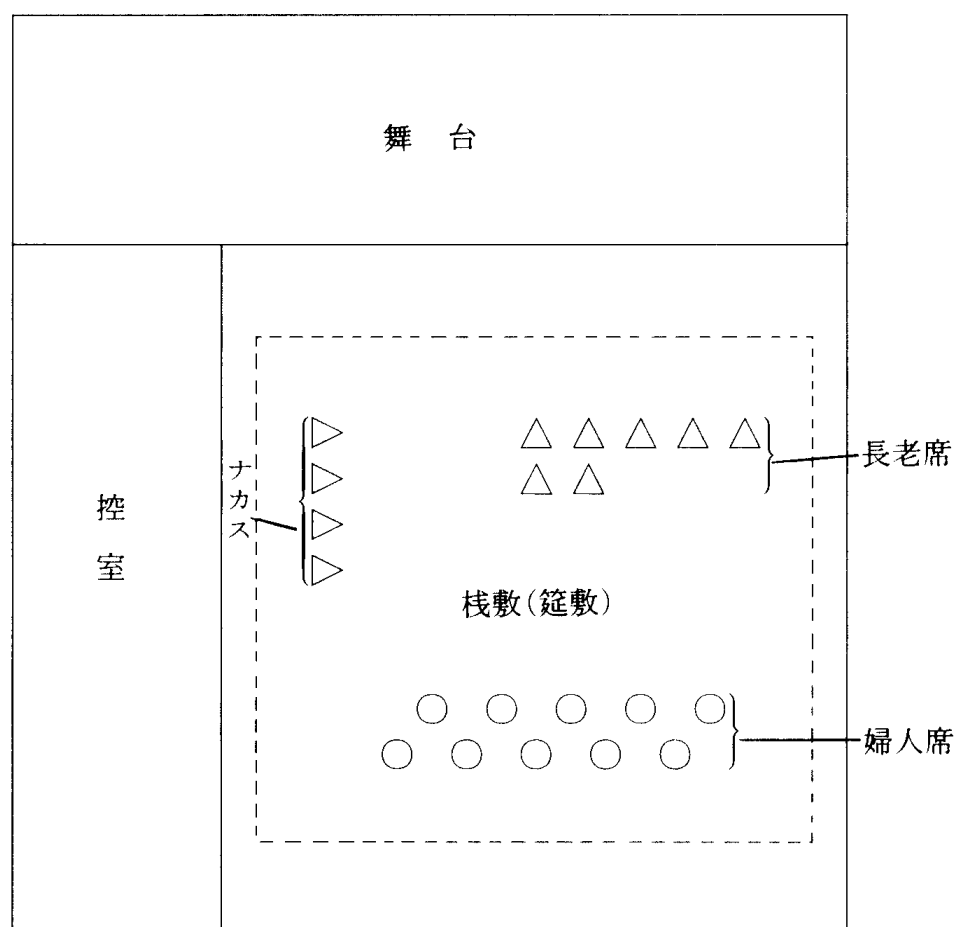
前仲神女は立ち上がり、線香をとぼし、軽く合掌し、神前に供えてある右の方のカンザリィクピンとサカンチィキィ（サカンチィキィヌダイ共に）を下ろし、自ら神酒を注ぎ、サカンチィキィヌダイを両手で持って、公民館長らに向かってお礼の挨拶を述べる。これに対し、公民館長も、今年の豊饒に対する感謝を述べ「来る年は良いことだけをあらしめて下さい」とお願いの口上を述べる。前仲神女はサカンチィキィの神酒に口をつけ、ティダクシィワンのチィカーへサカンチィキィを廻す。以下同様にして、サカンチィキィは神女全員に廻り、その後で男衆に廻っていく。

〈午後 8 時 45 分頃〉これで村役の参加するカフニワンでの祭儀は終了となる。一同歓談し、明日の日程などについて確認する。ユングムリィの間はピーマチィコー（日待ち香）と呼ばれる持ちのよい線香が灯し続けられ、線香を絶やさない。

〈午後 9 時頃〉男衆が退出する。

(3) シェクミの芸能

シェクミの日の夜、北、南両部落はそれぞれ別個に芸能のシェクミを行う。近年は、北部落は公民館、南部落は集落改善センターを会場として行うようになっている。シェクミの日にはショウニチに演じられる芸能の全てを予め披露することになっており、部落の老若男女が参集する。座の配置も一定している。(図3参照)



〈図3〉 公民館でのシェクミ座図

〈午後9時10分頃〉棒の芸能のシェクミが終わり、狂言・舞踊など舞台の芸能のシェクミの準備が整い開始となる。立ち方は、シェクミの日には頭への被り物や衣装などは完全にせず、ややあらたまった程度の着物姿で舞台に立つ。これまで別個にもたれてきたキョングンザー、ブンドウリザーの人々が初めて一堂に会して、これまでの稽古の成果を確認し、ショウニチの舞台に備えるための催しである。この日の北部落のシェクミの出しものは次のとおり

であった。

1. シュバンキョングン（初番狂言） 2. イニマジン（稲真積み） 3. ハピラ
4. ブーピキ（苧引き） 5. ショウチクバイ（松竹梅） 6. ゴコクノマイ（五穀の舞い） 7. クバマクドゥキ（小浜口説） 8. アギクンノーラ（揚げ古見の浦）

因みに、1990年の南部落のシクミの番組は次のとおり。

1. シュンギン（初番狂言） 2. カシカキ（経掛け） 3. ティンガナシィ（天加那志） 4. サクホーキョングン（作方狂言） 5. ヨツダケ（四つ竹）

〈午後10時30分頃〉ナカスの代表が挨拶をし、解散となる。解散後、ブンドゥリィヤー、キョングンヤーではそれぞれのニンズが集まって、おさらいをすることになる。（以上は1992年調査の記録による）。

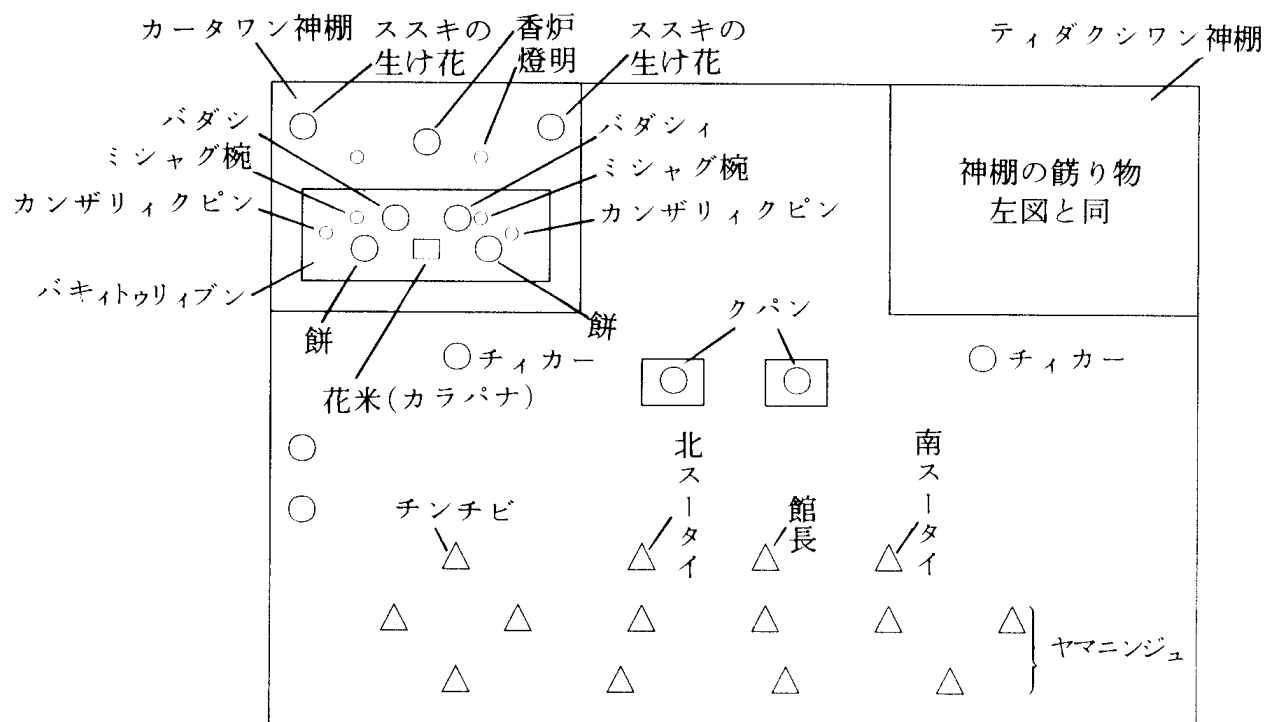
（4）ショーニチィの祭儀

〔アサニンガイ〕

ショーニチィの儀礼は、午前5時過ぎの公民館長、スータイらも加わったワーへの祈願から始まる。公民館長、スータイらは、ユンダムリィからあけたチィカーのいるカフニワンを訪れ、結願祭のアサニンガイに参加する。カフニワンでのアサニンガイの後、各ワンの神女らは自分の管掌するワンでアサニンガイを行う。

午前6時過ぎ、村内に触れのドラが鳴り渡る。6時半頃には各ワンに捧げられるコームチィ（供物）を女ナカスが頭にいただいて担当のワンへ向かう。アサニンガイはイーリィヤマからナカヤマ・サクイ、カフニの順で行われ、公民館長やスータイは各ワンの祭儀に参加する。各ワンではチンチビやワンに所属するヤマニンジュ有志も参加する。なお、本稿のイーリィヤマでの祭儀の様子は1990年の調査記録、ナカヤマ・サクイ、カフニワンでの祭儀の様子は1992年の調査記録によるものである。

〈午前7時頃〉クンヂィーを着用したチンチビ、公民館長、スータイ（公民館長、スータイはクンヂィーの上に羽織りを着ける）、ヤマニンジュ有志らがイーリィヤマ（カータ、ティダクシィ両ワンの別称）に到着、拝屋の内で座して待つ。チンチビ、公民館役員は前列で、チィカーらと相對するかたちとなっ



〈図4〉イーリィヤマ拝屋内図

ている。(図4参照)

〈午前7時10分頃〉チィカーが線香を上げて合掌、拝礼する。カータワンのカンサンチィ（成底トヨさん）がクバンを取り分ける。次いで、ティダクシィ（前盛ノブさん）、カータ（浦底ウナヒトさん）の両チィカーが拝礼をする。チィカーの合図でチンチビ、公民館長、スータイがユーパーイを行う。その後、一同で合掌して、拝礼する。

〈午前7時15分頃〉ティダクシィワンのチィカーが神棚のコームチィから湯飲み茶碗のアーライパナを取り、両手で捧げて拝礼し、続いてカラパナを一つまみ摘んで、捧げ持って拝礼する。そして、グシィマチィも下ろし、捧げ持って拝礼する。その後、カータワンとチィカーも同じ順序でコームチィを取って拝礼を行う。アーライパナの湯飲み茶碗をクバンの脇に置いて、チィカーが公民館長、スータイに挨拶をし、公民館長もそれに応えるお願いの口上を述べる。

〈午前7時20分頃〉チィカーがそれぞれの神棚の香炉に線香を上げる。ティダクシィワンのチィカーは自分のカフクをクバンの脇に置き整える。そして、グシィマチィを公民館長に渡す。カータワンのカンサンチィもグシィマチィ

ィを北村のスータイに渡す。館長らはグシィマチィの神酒をいただき、以下ヤマニンジュにグシィマチィは廻される。その後、両ワンの神棚からカンザリィクピンの神酒が下ろされ、サカンチィキィがチィカーから館長、スータイへ渡され、ヤマニンジュへ廻される。その次はミシャグの椀が同様に館長初め、ヤマニンジュに廻される。

その間に神棚のコームチィは下ろされ、餅が切り分けられる。クパンも取り分けられ、苞として一緒に袋に入れられ参会者全員に配られる。こうしてイーリィヤマでのアサニンガイは終了となる。

〈午前8時頃〉公民館長、スータイらがナカヤマ・サクイワンに到着する。チィカー、カンサンチィ、チンチビ初め、ヤマニンジュも着座している。

ナカヤマ・サクイの両ワンの神棚には、ススキの生け花、灯明の他、上記の重ね餅、アーライパナ、カンザリィクピン、サカンチィキィ、ミシャグの入ったバダシィ、ミシャグの椀などのコームチィが飾られている。また、拝屋の座敷中央付近には、クチィタカ（高膳）に載せられたクパンが供えられている。

ナカヤマワンはバチィである目仲トミ神女が、サクイワンはチンチビの男性（神女が参加できないのでチンチビが代行している）が神棚に線香を上げる。神女・チンチビが神棚の前に座り、合掌して祈願を上げる。神女はパイを行う。公民館長、スータイの3人もユーパイを行う。ヤマニンジュは座に正座したままである。パイが終わると目仲神女は立ち上がり、神棚に供えられたサカンチィキィヌダイとともにサカンチィキィを下ろし正座して、神酒をいただく。その後、再び線香を上げ、軽く合掌・拝礼を行う。

〈午前8時10分頃〉目仲神女が神棚からグシィマチィを下ろし、マチィングシィが公民館長、スータイに廻される。次いで、サクイワンのマチィングシィも廻される。公民館長、スータイの後は参列しているヤマニンジュにも廻される。次に、目仲神女はカンザリィクピンの神酒をサカンチィキィに注ぎ、これを両手で胸元に捧げ持って、公民館長、スータイらに挨拶する。公民館長は「良い天気をもたらして下さって、豊年を賜って下さい」という趣旨の口上を述べる。そして目仲神女はサカンチィキィの神酒をいただき、公民館長に下す。以下サカンチィキィの神酒は一座の人々に廻される。目仲神女は次いで、神棚からミシャグの入った椀一对を下ろし、1つは自分が捧げ持ち、もう1つ

は公民館長に渡して口上を述べる。ミシャグの腕も一同に廻される。

その間、神棚に供えられた神饌を載せたバキィトゥリィブンは下ろされ、餅が切り分けられる。目仲神女はクパンの方に向き直り、合掌する。その後で、神女自身でクパンを取り分ける。クパンの牛肉と餅は一緒にされて一座の人々へ苞として配られる。

以上でナカヤマ・サクイ両ワンのアサニンガイは終了となり、8時25分頃にはヤマニンジュらは退出する。

〈午前8時35分頃〉公民館長、スータイらがカフニワンに到着する。カフニワンの前仲神女は神棚の香炉に線香を上げ、合掌、拝礼を行う。そして、グシィマチィにサカンチィキィの神酒をあけ、右のカンザリィクピンの神酒を注ぎ、いただいてグシィマチィにあけ、次に左のカンザリィクピンの神酒をサカンチィキィに注いで、いただいてグシィマチィにあける儀礼を行う。その後、神棚よりカフクを下ろし、両手で捧げ持ってカラパナをいただく。そしてパイとなる。チンチビ、公民館長、スータイはユーパイを勤める。パイの後、前仲神女は再び線香を上げ、合掌する。

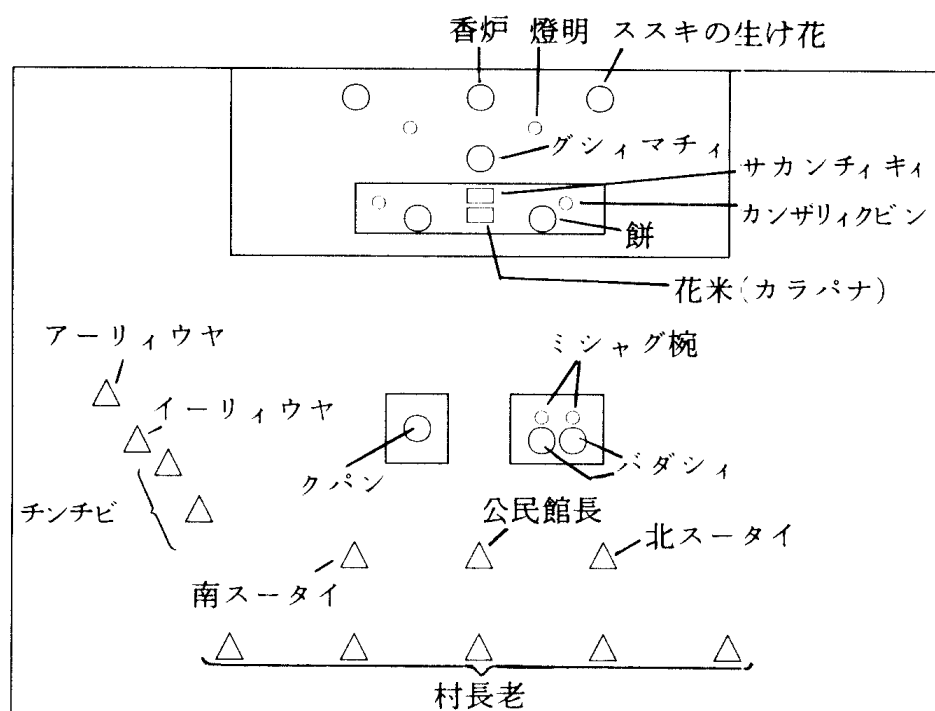
前仲神女は拝礼が終わると、カフクのカラパナとアーライパナを下ろし、一礼し、カンサンチィに渡す。注いでグシィマチィを下げ、一礼していただき、これもカンサンチィに渡すとカンサンチィもいただいて公民館長、スータイと渡す。前仲神女が神前に合掌・拝礼した後、カンサンチィはクパンを取り分ける。その後、前仲神女はミシャグの腕を捧げ持ち、神前に向かっていただく。

(図5参照)

〈午前8時45分頃〉前仲神女はカンザリィクピンとサカンチィキィを神棚から下ろし、神酒を注いで自らいただいて、その後公民館長、スータイらに渡す。サカンチィキィは一座の人々に廻される。

公民館長、スータイらは拝屋の座敷中央から東側に移動し、西面して、東と西のウヤ（長老）、チンチビに対面する。そして結願祭執行のお礼を述べる。ウヤもそれに対し返礼の口上を述べる。

〈午前8時50分頃〉前仲神女がバダシィからミシャグを注ぎ、カンサンチィとともに神前に向かって、捧げ持って一礼した後いただく。2つの腕のうちの1つは公民館長、スータイらへ廻り、もう1つはウヤの方へ廻される。ミシ



〈図5〉カフニワン拝屋内図

ャグの碗には口をつけず、軽く捧げ上げて、次の人に渡される。その後ミシヤグの碗は一座の人々に廻される。

〈午前8時57分頃〉前仲神女が線香を上げると、カンサンチィはクパンを取り分ける作業に着手する。また、コームチィが下ろされ、餅が切り分けられる。これらは苞として一座の人々に配られる。これで、カフニワンのアサニガイは終了となる。(その後、台風接近による悪天候下でのショウニチィの祭儀の執行についてウヤと公民館長、スータイで相談がなされた)。

〔ショウニチィの芸能〕

午前9時頃よりカフニワンの神庭で結願祭の芸能が始まる。その前、8時過ぎから北、南の芸能者たちは両部落の境界となっている仲盛長光氏宅角の辻に集合し、カフニワンまで行進するという。以下に記述する部分は全て1990年の調査記録によるものである。

〈午前9時15分頃〉カフニワンの神庭が芸能の舞台となる。ここをザー（座）と称する。神庭入口には芸能の演者たちが集まっている。

芸能は北部落のメーラクを先頭に北・南両部落の芸能の演者一同のザーマーリィ（座廻り）で幕を開ける。この時には獅子（雌雄）も登場する。最初はメ

ーラクを先頭とする北部落の芸能者のザーマーリィである。一行は次の順で登場する。メーラク、メーラクの供、旗持ち、酒杯持ち、瓶子持ち、子供、女の供、クパン持ち、五穀の種子持ち、踊り人数（12人）、地方人数（8人）。次いで、北部落の棒芸能者及び獅子舞いのザーマーリィがあつて、その後に南部落の芸能者のザーマーリィとなる。フクルクジュを先頭とする南部落の芸能者の行列も同様・同規模で、フクルクジュ行列の後に、南部落の棒芸能者と獅子舞いが続き、全員がミルクブシなどの演唱に合わせてゆっくりザーを一巡し、退場する。

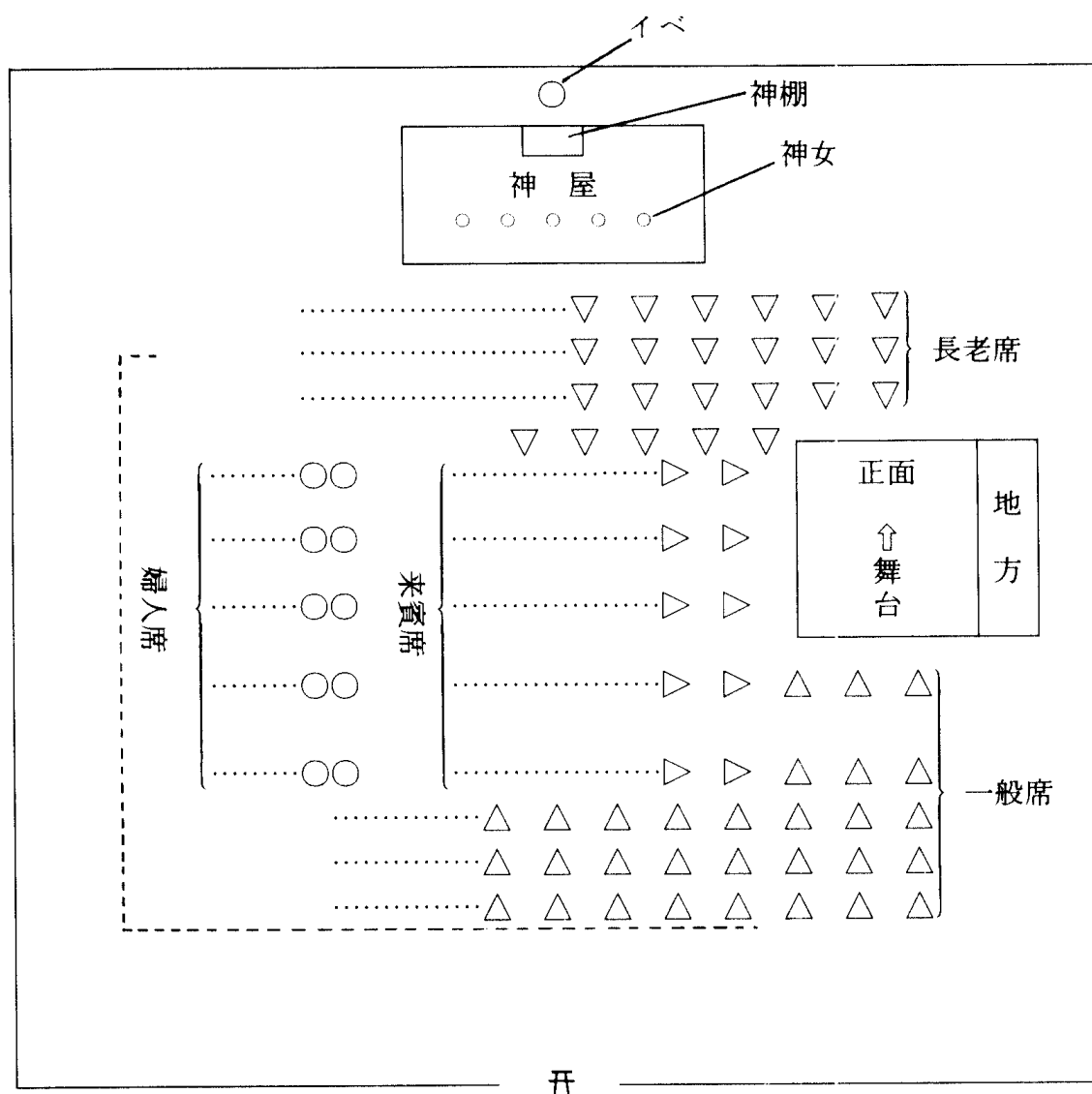
〈午前9時45分頃〉北部落の棒の芸能が始まる。全員の練りがあり、その後5番の出しものを演じ、最後にまた全員で練りをし、退場する。次いで、南部落の棒の芸能が同様に演じられる。

〈午前10時頃〉棒の芸能が終わったところで、ザーの片付けと舞台の設置が行われる。舞台は一辺が2間半程の小さなものである。後方には幕を隔ててディー（地方）が控えている。20分程あつて舞台と栈敷の準備が出来上がり、クンディーの礼装をした村の長老連初め、村人が栈敷に着座する。舞台を囲む三方が栈敷で、正面はカフニワンの拝屋に向かっている。栈敷は礼装した部落の長老・男衆初め来賓の座であるが、その座は正面が七十以上の長老の席、背面がそれ以外の男衆の席、側面は来賓席となっている。長老・男衆の座順は年令順に厳格に決まっている。

カフニワンの拝屋の座敷は、小浜のムーヤマ（六山。6御嶽）の神女の座となる。神女らはザーに向かって座る。（図6参照）

〈午前10時30分頃〉ナカスの口上で、ザーに参会した一同はカフニワンに向かう。神衣裳を着けたカフニワンの神女を中心として神女らが神前に向かって合掌・拝礼すると、一同も拝礼を行う。これから芸能の開始となる。以下、当日の演目のみを挙げる。

1. メーラク（御前風、赤田首里殿地、オカタ、マミドーマ、クイチャー、稲摺り節、小浜節、ウマブシャーの舞踊を演じる。ヤーラーヨーでメーラク一行退場）
2. フクルクジュ（赤馬節、夜雨節、稲摺り節、日出度節、カタミ節、前の浜、ウマブシャーの踊り。小浜節でフクルクジュ一行退場）
3. 公民館長挨拶。乾杯の挨拶。来賓挨拶（2人）
4. カジャディフォー（北部落。



〈図6〉 カフニワンのザーの図

以下「部落」の2字省略) 5. シュンギン (初番狂言) (北) 6. グジンフー (南) 7. シュンギン (初番狂言) (南) 8. ブーピキ (北) 9. カンザクキョングン (北) 10. カシカキ (南) 11. サクホーキョングン (南) 12. イニマジン (北) 13. ティンジャナシ (南) 14. ハピラ (北) 15. 四つ竹 (南) 16. 松竹梅 (北) 17. 鶴亀 (南) 18. 五穀の舞い (北) 19. 鷺の鳥 (南) 20. アギクンノーラ (北) 21. 胡蝶の舞い (南) 22. 忍 (北) 23. 八重瀬 (南)

これらの奉納芸能で演唱される歌謡については後掲の資料をご参照いただきたい。

〈午後4時15分頃〉奉納芸能が終了すると、神女らは神衣装を着け、拝礼の準備をする。公民館役員らはカフニワンの座に着き、神女とともに拝礼をなす。チィカー一同の拝礼とともに、公民館役員らはユーパイを行う。その後、カフニワンの神女の挨拶があり、サカンチィキィの神酒が一同に廻される。次いでグシィマチィの神酒が神女から公民館長、スータイらに廻される。その後、館長、スータイと東西のウヤらは向かい合い互いに挨拶を交わす。神女はこの時には神衣装を外し、ショウニチィの祭儀は終了となる。

ザーは、村の若者が出て、後片付けをする。4時30分頃には参会者らは退出する。

(5) トゥンドゥミの祭儀

〔ミルクヤーでの祭儀〕

トゥンドゥミの儀礼は三日目の午後4時頃よりミルクヤー、フクルクジュヤーでそれぞれ行われる。部落の長老・有志一同もクンヂィーの礼装で参加する。

〈午後4時35分頃〉ミルクヤーでは、当主が司祭となって、ナカス・メーラク役らとともにミルク神（仮面）に線香を上げ、拝礼する。ナカスはこの時、ユーパイの拝礼を行う。メーラクの神前に飾られていたマチィングシィが当主から、ナカス、一同（長老から目下へ）の順で廻される。その後、ミルク神の前に供えられたカンザリィクピンの神酒が当主を先頭に長老初め、一同へ廻される。次いで、長老の挨拶、北部落スータイ、公民館長の挨拶があり、歓談となる。

〈午後5時頃〉メーラクにつき従ってメーラクの芸能を演じた人々の支度が整ったところで、ヂィーによってカギヤデフー、ウンナ節、ハイチョウ節が演奏される。その後一同は庭に向き直り、庭で演じられるメーラクの芸能のトゥンドゥミが始まる。

ミルクヤー庭での芸能の演目は次の通り。

1. メーラクの行列（メーラク及びメーラクの芸能の演者）
2. カジャディフー
3. 赤田首里殿内
4. オカタ
5. マミドーマ
6. 稲摺り節
7. 小浜節
8. ウマブシャー。ヤーラーヨーで全員退場する。

〈午後 6 時 10 分頃〉ナカスの挨拶で、ミルクヤーでのトゥンドゥミは終了となる。

〔ブンドゥリィヤーでの祭儀〕

ミルクヤーでのトゥンドゥミが終わると、キョングンヤー、ブンドゥリィヤーでもトゥンドゥミの儀礼がある。トゥンドゥミの儀礼の後には両ヤーでの狂言・舞踊の稽古は禁止となるという。

〈午後 6 時 20 分頃〉ブンドゥリィヤーの床の間に、皿に載せた豆腐一丁、3 合瓶の酒 2 本、マースウサイがお供えされる。赤馬節が演奏され、ブンドゥリィヤーの婦人 2 人が舞う。次いでマヘラチィ、繁昌節が踊られたが、これは夜のトゥンドゥミの稽古という。

〈午後 6 時 50 分頃〉ヂィー（地方）の責任者、当家主人、女性師匠がブンドゥリィヤーの座に着座。ヂィー（地方）の責任者が床の間に線香を上げ、一同で拝礼を行う。サカンチィキィを床の間から下ろし、ヂィー責任者から当家主人に渡し、次いで女性師匠に渡す。お互いに挨拶を交わす。次いで、床の間の豆腐の一切れが先の順で授けられ、その次にマースウサイが授けられる。最後にヂィー責任者が自身で豆腐、マースウサイをいただく。

ヂィー責任者は当家仏壇へも線香を上げ、拝礼を行う。ここで、着座しているヂィー一同へサカンチィキィの神酒を授ける。挨拶があり、一同へ豆腐が授けられ、歓談となる。これでブンドゥリィヤーでの祭儀は終了となる。

〔公民館での祭儀〕

〈午後 6 時 50 分頃〉公民館では北部落のナカスの交代の儀式が行われている。新ナカスとなる女性 2 人が、ナカスの責任者の案内で部落長老連へ盃を捧げて挨拶をする。次いで、引退するナカスが長老ひとりひとりに挨拶をする。この時は盃は捧げない。これでナカスの交代の儀式は終わりである。

〈午後 8 時 25 分頃〉午後 8 時過ぎより部落を挙げてのトゥンドゥミの催しとなる。そこでは、奉納芸能として演じられたものも、演じられなかったものも含めて二十にも及ぶ演目が披露され、それらが終わるのが午後 11 時半をまわる頃である。

カジャディーフー、ウンナ節、ハイチョウ節の演唱がまずある。以下、舞台の芸能となる。演目は次のとおり。

1. 赤馬節 2. シュバンキョングン 3. 繁昌節。4. 赤城の子守歌 5. 滝おとし 6. 上り口説 7. 貫花 8. ブーピキ 9. 人生劇場 10. ハピラ 11. マヘラチィ 12. 小浜口説 13. 寸劇 14. 鷺の鳥 15. 五穀の舞い 16. 松竹梅 17. 稲真積み 18. 前の浜 19. クンダカフニ 20. アギクンノーラ

午後11時30分過ぎにトゥンドゥミの芸能は終了し、散会となった。

解散後、館内が片付けられ、筵座敷に長老連、スータイら役員、ナカス達が集まり、ディー、ブンドゥリィニンズ、キョングンニンズに対する慰労の会が催される。ここでの会が終わるとブンドゥリィニンズ、キョングンニンズはそれぞれのヤーに戻り、ここで互いの労をねぎらう会を開くという。以上でトゥンドゥミの祭儀は終了である。

(6) タマスコーサミの祭儀

タマスコーサミの儀礼は四日目の午前8時過ぎから始まる。ミルクヤーにナカスが集まると、当主はメーラク神にお茶を上げ、次いで線香をとぼす。メーラク神の前に供え物（自家で挽いた麦の粉で揚げたテンプラ、朱染めのゆでたまご、揚げ豆腐）が供えられる。当主が再び線香を上げると、当主・ナカス一同は合掌・祈願し、次いでユーパイをなす。その後、メーラク神の神前に捧げられた神酒を全員でいただき、当主とナカスの間で挨拶が交わされる。そして、当主がメーラクを納める箱の回りを片付けるとナカスの一人が箱の蓋を開け、もう一人がメーラクを箱の中に納める。メーラクは東を枕として安置する。メーラクの箱に蓋がされると、箱の上に香炉、湯飲み碗、供え物が飾られる。これで儀礼は終わりである。

この日の夜、ミルクヤー、フクルクジュヤー、キョングンヤー、ブンドゥリィヤー、スリチュー（ナカスの集会所）ではそれぞれの成員の労をねぎらう集まりがもたれ、夜遅く迄賑わう。これが結願祭のタマスコーサミである。

なお、タマスコーサミは旧盆、結願祭の二つの祭礼に行われるという。

3. おわりに

小浜島の結願祭のあらましを紹介したが、この祭りの特色の第一は、祭祀と

祭祀組織の結び付きが極めて明瞭にみられ、琉球文化圏における祭祀文化の代表的な祭りの一つととらえられることがあげられよう。チィカーを頂点にした神女集団、チンチビとヤマニンジュ、ナカス公民館役員、ミルクヤー、フクルクジュヤー、キョングンヤー、ブンドゥリィヤーといった祭祀組織が、結願祭という一つの祭祀を執行していくときどのように機能し、どのように関わり合っているかをみていくことは、単に結願祭のありようだけを考察するに止まらず、沖縄の祭祀全体を考察する大きな手掛かりとなると思われるのである。

次に、祭祀と芸能の緊密な結び付きがあるだろう。一般に八重山の結願祭では、芸能づくりの感がするほどに多数の芸能が演ぜられる。そのなかでも、毎年举行される小浜島の結願祭は島の芸能を育む母胎として重要な地位を占めてきた。小浜島の結願祭の芸能の豊かさは、その中に島独自の芸能を多数保持している点に端的に現れている。この豊かな芸能がユーニンガイともいわれる厳粛な祭祀の部分と密接に結び付いているのである。これは、祭祀と芸能の関わりが始源的なありようを窺わせて貴重である。

このように貴重な価値を有する小浜島の結願祭であるが、島の生産及び生活様式の変化はこの祭りにも重要な変化をもたらしているようである。残念なことであるが、島の過疎化はこれまでの芸能の担い手を変化せしめている。これは、現在の結願祭の芸能が古態とは異なったありようをせまられるということであり、現実にもそのようになっている。この部分が島の人々の手によって元の形に戻される時、小浜島の結願祭は竹富島の種取り祭と共に、沖縄・八重山における祭祀と芸能の結び付きの源初的かつ典型的なものとして、竹富島の種取り祭と共に双璧をなすものとして、その価値を広く認められることになると思われる。

末筆となりましたが、調査に際して御教示・御協力を賜りました大嵩秀雄先生、仲盛長光・通事安市・花城英行・松原浩・仲盛長義氏はじめ、小浜島の方々に厚くお礼を申し上げます。

《参考資料》

結願祭の歌謡

1. 御前風（メーラクで）
2. 赤田首里殿内（メーラクで）
3. オカタ（メーラクで）
4. マミドーマ、クイチャブンドゥリィ（メーラクで）
5. 稲摺り節（メーラクで）
6. 小浜節（メーラクで）
7. ウマブシャー（メーラクで）
8. ヤーラーヨー（メーラクで）
9. イラサニシャー（フクルクジュで）
10. 夜雨節（フクルクジュで）
11. 稲摺り節（フクルクジュで）
12. 日出度節（フクルクジュで）
13. カタミ節（フクルクジュで）
14. 前の浜（フクルクジュで）
15. ウマブシャー（フクルクジュで）
16. 小浜節（フクルクジュで）
17. 前の浜（初番狂言で）
18. 汀間当（初番狂言で）
19. 小浜口説（初番狂言で）
20. 高那節（初番狂言で）
21. 貫花（初番狂言で）
22. カティク（初番狂言で）
23. ヤーラーヨー（初番狂言で）
24. 御前風（初番狂言で）
25. カギヤデ風（初番狂言で）
26. 豊年口説（初番狂言で）
27. 鳩間節（初番狂言で）
28. 浜千鳥（初番狂言で）

29. 谷茶前（初番狂言で）
30. アガローザ（初番狂言で）
31. [ヨーサムエン]（初番狂言で）
32. クンダカフニ（初番狂言で）
33. ヨシヤイノウ節（初番狂言で）
34. 苧引き（舞踊）
35. カセカケ（舞踊）
36. 稲真積み（舞踊）
37. 天加那志（舞踊）
38. ハピラ（舞踊）
39. 四つ竹（舞踊）
40. 松竹梅（舞踊）
41. 鶴亀（舞踊）
42. 五穀の舞い（舞踊）
43. 鷺の鳥（舞踊）
44. 揚げ古見の浦（舞踊）
45. 胡蝶の舞い（舞踊）
46. 忍（舞踊）
47. 八重瀬（舞踊）
48. 恩納節（トゥンドゥミで）
49. ハイチョウ節（トゥンドゥミで）
50. マヘラチィ（トゥンドゥミで）
51. 繁昌節（トゥンドゥミで）

結願祭の狂言

1. シュバンキョングン（初番狂言・北部落）
2. シュバンキョングン（初番狂言・南部落）
3. カザクキョングン（鍛冶工狂言・北部落）
4. サクホーキョングン（サクホー狂言・南部落）